

論文の内容の要旨

論文題目

モダリティ表現の多義性 — 共時的バリエーションと通時的変化

氏名

ナロック ハイコ

本論文は2部からなり、テーマは「モダリティ表現の多義性 — 共時的バリエーションと通時的変化」である。このテーマについて本稿でなされる主な主張は、「事実性」の概念に基づいたモダリティ表現の定義の有効性、及び2つの仮説、すなわち「意味は、文内容的な意味から話し手中心の意味あるいは談話機能的意味へと変化する」と、「通時的な意味変化は共時的な意味のバリエーションに基づく」である。

第I部では、理論的な検討を行った。文法範疇としての「モダリティ」についての把握は様々であり一致が見られないが、第1章では、従来の定義を批判的に紹介した上で、「事実性」の概念に基づき、構造より「意味」を重視した類型論的立場からその再定義を試み、その定義の通時的な含意についても論じた。第2章では、多義性の概念を紹介し、多義性の発達について仮説をたてた。第2章の第3節では、第1節と第2節で行った考察の結果を照らし合わせ、モダリティ表現の共時的多義性と通時的意味変化との関係について論じた。

第Ⅱ部は、第Ⅰ部の理論的考察の結果を、日本古代語のモダリティ表現である「～ベシ」を例に、検討した。「～ベシ」は一般に非常に多義的な文法的マーカーとされているようであるが、具体的な意味分析については諸説が異なる。第4章と第5章では、第2章で紹介した多義性概念に基づいて、上代語における「～ベシ」の多様な意味解釈を体系的に説明することを試みた。続いて、「～ベシ」の通時的な意味変化の記述と、上代語における多義性の語源に関する考察とを通じて、第2章でたてたモダリティ表現の多義性と意味変化との関係についての仮説を検討した。検討の対象となった資料は限られたものではあるが、その範囲内では、仮説が事実と合致することが確認できたと思われる。また、「～ベシ」の原義については、一般言語学的な研究でよく言われる「義務のモダリティ」から「認識的なモダリティ」への変化は確認できず、「～ベシ」の諸々の意味と解釈の源にあるのは、「参加者内的潜在性」であると結論付けた。